

記 録

岡山県新産の蘚類, ホウライスギゴケ

岡山県自然保護センター	地職 恵*
岡山県自然保護センターボランティア	高野 佳郎
岡山理科大学自然植物園	西村 直樹

A Newly Discovered Moss (*Pogonatum Cirratum* Subsp. *Fuscatum*) in Okayama Prefecture

Megumi CHISHIKI, *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*
Yoshiro TAKANO, *Volunteer of Okayama Prefectural Nature Conservation Center*
and
Naoki NISHIMURA, *Botanical Garden, Okayama University of Science*

キーワード：岡山県, 蘚類, ホウライスギゴケ.

著者の一人である高野が日応寺自然の森（岡山市）から採集した数点の蘚類を精査したところ、岡山県新産となるホウライスギゴケ *Pogonatum cirratum* (Sw.) Brid. subsp. *fuscatum* (Mitt.) Hyvönen が見いだされたので報告する。

ホウライスギゴケ（写真1, 2）はスギゴケ科ニワスギゴケ属の蘚類である。日本産スギゴケ科をまとめた Osada (1965) によると、日本産のニワスギゴケ属の中では、岡山県北にもよく生育するコセイタカスギゴケ *P. contortum* に近縁な種と考えられているが、ホウライスギゴケはより低地に生育し、葉身部がより細く、鞘部が全縁であることなどでコセイタカスギゴケから容易に区別される。分布域は、東南アジア（セレベス、マラヤ、フィリピン）から中国、台湾、日本にまで広がり、日本では伊豆半島以西の太平洋岸沿いの暖地に生育する。また本州では稀であるが、九州では普通種であると述べられている。

中国地方において知られている本種の産地は比較的少なく、Osada (1965) では、広島県の2ヶ所

が示されているにすぎない。その後、山口県（塩見・鈴岡, 1982）、広島県（西村ほか, 1979；中島ほか, 1983）、の報告があるため、岡山県においても生育の可能性があると考えられていたが、現在まで見出されていなかった。

日応寺自然の森は面積162ha、標高は200～350mで、岡山市の北西部に位置する（図1）。岡山県中部に広がる吉備高原の南端にあたり、南西に近接して岡山空港がある。岡山県野生生物目録（2003a）による区分では県中部地域に位置付けられている。周辺の地質は、基盤の花崗岩の上を不整合に第三紀中新生の砂岩・礫岩が覆っている（光野ほか, 1980）。植生は斜面や尾根にアカマツやコナラ、タカノツメ、ソヨゴなどがみられ、林床にはコシダやウラボシが生育する。斜面下部ではシリブカガシ、ツクバネガシ、アラカシ、ツブラジイ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹への移行もみられる。まれにウリハダカエデやイヌブナ、アテツマンサクなど県北部に生育の中心をもつ種も生育する。また東北の谷に沿って2.7haの湿原が広がり、絶滅危惧種を含む貴重な湿生植物の生育がみられる。コケ植物としては、湿原から山の斜面にかけてオオミズゴケの群生地が知られている。県中南部の

* 連絡先：fvbs5493@mb.infoweb.ne.jp



図1. 日応寺自然の森位置図

オオミズゴケ群落の中では規模も大きく、貴重な群落となっている(地職, 1998 a)。他にも、イクビゴケ, ナミガタチゴケ, オオスギゴケ, ホソバオキナゴケ, ヒノキゴケ, キダチヒラゴケなどがみられ、特に谷沿いには多くの種が生育する。

ホウライシギゴケが見だされたのは狭い溪谷で、標高260mの北向き斜面である。谷の斜面に大きな岩が張り出した岩棚があり、その岩場の上部や側面に群落ができていた(写真3, 4)。ホウライシギゴケと共に生育がみられたのは、ヒロハヒノキゴケ, トヤマシノブゴケ, オオシラガゴケ, ムチゴケなどであった。また溪流の水しぶきのかかる岩の側壁にはクマノゴケが大きな群落を形成し、県内では南限となる群落である(地職, 1998 b)。

オオミズゴケもクマノゴケも共に絶滅危惧Ⅰ類にランクされ(環境庁編, 2000), また岡山県版レッドデータブック(2003 b)でも絶滅危惧種とされている。今回新たにホウライシギゴケが見いだされたことと合わせて、日応寺自然の森には良好な自然が保たれていることが推察される。

Specimens examined :

Japan, Honshu, Okayama Pref., Okayama-city, Nichiouji-shizenno-mori, 260m alt., on rock, Oct. 16, 2004, Coll. Y. Takano, Det. M. Chishiki 3768 ; Nov. 4, 2004, Coll. M. Chishiki 3775.

(標本は岡山県自然保護センター及び岡山理科大学自然植物園の標本庫に収蔵されている)

引用文献

- 地職 恵, 1998 a. 岡山県におけるオオミズゴケの分布. 岡山県自然保護センター研究報告(6) : 9-13.
- 地職 恵, 1998 b. 岡山県内におけるクマノゴケの分布. 岡山コケの会ニュース (14) : 11-12.
- 環境庁編, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物・(維管束植物以外) 蘚苔類・藻類・地衣類・菌類. 8 pls. + 429 pp. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
- 光野千春・沼野忠之・野瀬重人, 1980. 岡山県地学のガイド. 252 pp. コロナ社, 東京都.
- 中島光博・樋口正信・関 太郎・安藤久次, 1983. 滝山峡の蘚苔類. 滝山峡—自然と生活(総合学術調査研究報告). pp. 295-325. 滝山峡総合学術調査委員会, 広島.
- 西村直樹・出口博則・関 太郎・安藤久次, 1979. 小瀬川流域の蘚苔類. 弥栄峡の自然(総合学術調査研究報告). pp. 471-508. 名勝弥栄峡総合学術調査委員会, 広島・山口.
- 岡山県野生生物調査検討会, 2003 a. 岡山県野生生物目録. 397 pp. 岡山県生活環境部自然保護課・財団法人岡山県環境保全事業団.
- 岡山県野生生物調査検討会, 2003 b. 岡山県版レッドデータブック. 465 pp. 岡山県生活環境部自然保護課・財団法人岡山県環境保全事業団.
- Osada, T. 1965. Japanese Polytrichaceae. I. Introduction and the genus *Pogonatum*. J. Hattori Bot. Lab. 28 : 171-201.
- 塩見隆行・鈴岡洋志, 1982. 山口県の現生コケ植物. 山口県のコケとシダ, pp. 25-134. 山口県立山口博物館.



写真1. ホウライスギゴケ

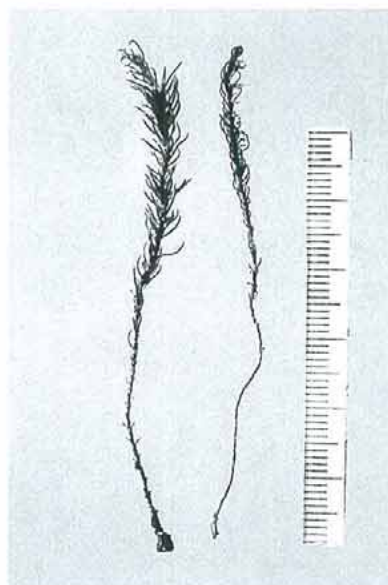


写真2. 葉は湿ると展開し(左)乾くと巻縮する(右)



写真3. 生育地の様子



写真4. 群落